

丸 紅 株 式 会 社

金属部門 事業説明会 主な質疑応答

開催日： 2011 年 2 月 7 日（月）

【主な質疑応答】

質 問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ● 従来より鉱山技師（マイング・エンジニア）等を確保してきた事による強みが活かされた具体的事例は。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Esperanza・El Tesoro 鉱山開発への参画方針を決定するプロセスにおいて、競合相手より迅速な意志決定が可能となり、案件獲得に繋がった。
<ul style="list-style-type: none"> ● Esperanza 鉱山の副産物である金によるキャッシュコスト削減効果はどの程度あるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 以下前提条件を仮定すると、金価格（年平均）が 100 ドル/オンス変動した場合、理論上は、銅のキャッシュコストは年間 100 ドル/トン程度変動する。 前提：銅生産量 200 千トン/年 金生産量 200 千オンス/年
<ul style="list-style-type: none"> ● 銅の TC/RC（Treatment Charges/Refining Charges：溶錬費/精錬費）が増加するとマイナスの影響があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ LME 銅価格から TC/RC を差し引いた分が、銅鉱山側の取分となる為、TC/RC の増加は、鉱山側にとってマイナスの影響となる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 来年度以降の銅事業の利益見通しは。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 今年度の銅事業の利益に、来年度からは Esperanza 鉱山の利益が加わる。また、銅価格・金価格（Esperanza 鉱山の副産物）といった市況要因も考慮する必要があるだろう。
<ul style="list-style-type: none"> ● 銅の価格ヘッジ方針は。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ パートナーとも協議し、合意する必要があるが、現時点では、銅の価格ヘッジは行わない方針である。
<ul style="list-style-type: none"> ● 今後の銅のキャッシュコストの見通しは。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 過去 5 年間で、刊における銅のキャッシュコストは 50% 以上上昇しており、今後も人件費、エネルギー費や資材費（硫酸等）の上昇が見込まれる。その一方で、キャッシュコスト上昇が銅の価格上昇の一要因となってきたとも考えている。

<p>● 銅権益の拡張に対する今後の取組は。</p>	<p>◆ 当初予定より前倒しで Telegrafo 銅鉱山を開発することを検討しており、速やかに事業化調査を開始したいと考えている。</p>
<p>● 昨年 12 月の大雨による影響があった豪州石炭事業の操業状況は。</p>	<p>◆ ≪ジェリソバ・イースト炭鉱・レイク・バーモント炭鉱≫ 通常操業の 4-5 割程度まで復旧しており、2 月末を目途にフル操業まで回復させたい。</p> <p>≪ヘイル・クリーク炭鉱≫ 大雨の影響は軽微であり、通常操業の 7-8 割程度まで復旧している。</p>
<p>● 石炭権益の拡張に対する今後の取組は。</p>	<p>◆ レイク・バーモント炭鉱は増産（4 百万トン→8 百万トン）を決定済みである。ジェリソバ・イースト炭鉱についても増産を検討していきたい。また、ヘイル・クリーク炭鉱は既に 12 百万トン进行处理する洗炭プラントを保有しており、原炭の掘り出し能力の引き上げ（8 百万トン→12 百万トン）を検討したい。</p>
<p>● ロシア/モンゴル/モザンビークからの新たな石炭供給により、石炭マーケットの需給状況に影響は出てくると考えられるか。</p>	<p>◆ ロシアからの供給は、新規鉄道敷設によって増加する可能性がある。一方、モンゴルからの石炭は、海上輸送が容易でない為、影響は限定的。また、モザンビークからの供給先はブラジル・インドが中心になると予想され、環太平洋マーケットへの影響は大きくないと見ている。</p>
<p>● アルミ分野においては、今後どの様に、上流権益（ボーサイト・アルミ）獲得を行うのか。</p>	<p>◆ 製錬事業を核としたバリューチェーンを築いていくことで、寡占化の進みつつある上流権益においても、当社のプレゼンス確保・向上に努めていく。</p>
<p>● 投資戦略の全体像は。強みのある分野を今後も強化していくのか。</p>	<p>◆ 銅・石炭といった強みのある分野を更に強化すると共に、今まで手掛けていないアルミの上流権益、鉄鉱石権益なども検討していきたい。</p>

<p>● 金属部門の純利益の内、トレードの占める割合は。</p>	<p>◆ 一つの事業で投資・トレードともに手掛けているケースもあるので、明確な線引きは出来ないが、トレードによる純利益は、1～2 割程度と考えている。</p>
<p>● 今後、トレードを拡大させる中で、金属部門のバランスシートも増大していくのか。</p>	<p>◆ 当社のトレードにおいては現金決済のビジネスの割合が多く、バランスシートを大幅に増大させることは想定していない。</p>
<p>● 保有権益の売却等、資産リサイクルを検討する可能性はあるのか。</p>	<p>◆ 現状、具体的な売却案件の検討は行っていない。</p>
<p>● 銅・アルミ・石炭の市況見通しにつき、説明願いたい。</p>	<p>◆ 《銅》 一時的な調整はあるかもしれないが、現在の市況（9,000-10,000ドル/トン程度）からの大幅な下落は、当面はないと見ている。需給は引き続きタイトであり、更なる上昇の可能性もある。</p> <p>《アルミ》 電気代等のコスト上昇や需要の伸びもあり、中長期的に 3,000ドル/トン程度まで上昇する可能性はある。短期的には 3,000ドル/トンをつけるかも知れないが、在庫が高水準にある為、長続きはしないだろう。現状の 2,500ドル/トン近辺は程良い水準と考える。</p> <p>《石炭》 原料炭は供給量に限界がある為、中長期的には足許の市況（1-3 月期ベンチマーク価格 225ドル/トン程度）を上回るレベルで推移すると見ている。</p>

以上